

さくらに大

(題名は校歌より)

さいたま市立宮前小学校

学校教育目標

- ・本気で勉強しよう
- ・心をみがき体をきたえよう
- ・人のためになろう

発行責任者 校長 玉井 康仁

在籍児童数 819人

褒められるって、気持ちいい

校長 玉井 康仁

1月22日(月)は4年ぶりに20センチ超の大雪が降り、その後寒い日が続いておりますが、暦の上では「立春」となる2月を迎えました。学校の校庭を歩いてみると、プール側の梅花がほころび、一日一日春が近づいていると感じます。早いもので、3学期がスタートしてあっという間に1か月が過ぎましたが、子どもたちは「まとめの学期」にふさわしく、落ち着いた学校生活を送っております。今月号は、そのことを感じられるエピソードを2つばかり紹介します。

1月17日(水)に「避難訓練」を行いました。災害はいつ、どんな時に起こるかわかりません。自分自身でどんな判断をしておこなった行動をとるかが、「自助」(自分で自分を助けること)につながります。そのことを受け止め、今回の避難訓練は児童に予告せず、休み時間に行いました。まず緊急地震速報の放送により各自が自分の身の安全を確保し、その後、家庭科室から出火したという想定で避難を開始しました。全校児童が校庭に避難するのは今年度2回目にもかかわらず、整然と並んで避難をしていました。前の人を押したり、ふざけたり、おしゃべりする児童はなく、1学期の訓練より1分30秒も早く校舎の外へ避難することができました。

さいたま市西消防署の方から、「児童数が多い学校で、こんなに早く、しかも約束(おさないか)けない(しゃべらない)もどらない(ちかよらない)を守って避難できる児童の皆さんは素晴らしい。しかも、きちんと煙除けのハンカチを口に当てていた児童も多かった」と褒められました。そして、「特に高学年の姿が素晴らしかった。きっと高学年の皆さんが他の児童の手本となっているのでしょうか」と話されていました。この話を聞いて、児童の皆さんはどのように感じますか。校長先生は、とっても嬉しかった。児童の皆さんを誇らしく思いました。

次に、1月25日(木)に「地元シェフによる学校給食」を行いました。給食の意義・役割等について理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図る「学校給食週間(1/24~1/31)」ということで、さいたま市長 清水 勇人様も来校されました。

まず、児童集会では、給食委員会が給食の歴史を紹介した後、パレスホテル大宮副料理長 毛塚 智之様から本日の給食メニュー(フランス料理)の紹介と「食」についてのお話をいただきました。その中で「小学生のころ、自分が作った料理を家族がおいしいと食べてくれたのが、シェフの道に進んだきっかけです。」というお話に、児童は熱心に聞き入っていました。

給食では、清水市長、毛塚シェフ、教育委員会佐藤指導主事が児童と会食しました。その後、感謝の会が開かれ、清水市長から「6年生の児童と楽しく話しながら給食をいただきました」という言葉をいただき、毛塚シェフからは「約1日児童と活動しましたが、給食委員会の皆さんの話をする姿、そして、話を聞く全校児童の姿が素晴らしいですね。」と褒められました。校長先生は、お客様がお帰りになった後、すがすがしい気持ちになるとともに、宮前小の子どもたちと生活できる喜びを感じました。

このように、本校の児童は、子どもらしく伸び伸びと活動しています。学校の教育活動での経験(よき体験)が、子どもたちの健やかな成長を促し、さらに、将来につながることを実感した2018年の始まりの月でした。